

第49回 三重泌尿器科医会抄録

The 49th Mie Urological Meeting, Abstracts

日時：平成23年1月23日（日）

場所：三重大学医学部 先端医科学教育研究棟 第2講義室

1. 名古屋セントラル病院泌尿器科の 2010年手術統計

名古屋セントラル病院

黒松 功, 古澤 淳, 平林 淳

名古屋セントラル病院における2010年の手術統計をM-CUREの統計分類に従って集計した。体外衝撃波結石破碎術110例を含めた手術総数は334例であった。ほぼ全ての分類において2009年の手術数を上回り、特に結石破碎装置の更新に伴い衝撃波による治療数が110例と飛躍的に増大した。また腎、尿管結石に対する経尿道的手術はほぼfTULで施行している。

前立腺全摘術は20例と2009年に著明に増加した状態を維持していた。2010年4月に腹腔鏡補助下小切開手術の認定施設を会得し、現在6-7cmの切開創でミニマム創手術を施行し、low riskの前立腺癌に対しては神経温存を行っている。また金マーカー留置下IMRTも例年通り施行し、74-76Gyの処方線量でほぼ有害事象を生じることなく経過している。

腎癌、腎盂・尿管癌、副腎腫瘍に対する腹腔鏡下手術は計16例に施行し、これまですべて開腹に移行することなく手術可能であった。

2. 2010年入院手術統計

愛知県がんセンター中央病院

林 宣男, 脇田利明, 小倉友二

2010年の新患と再来を合わせた外来患者数は9,121名と前年に比し6.2%増であった。入院患者数は、387名と前年に比し23.8%減であった。年間手術件数は、187件と前年と同数であった。

腎・腎盂尿管・副腎の手術では、根治的腎摘除術が3件、腎部分切除術が3件、腎尿管摘除術が10件、副腎摘除術が1件、尿管鏡検査が1件であった。膀胱の手術では、膀胱全摘除術が7件（回腸導管が5件、尿管皮膚瘻が2件）、膀胱部分切除術が2件、TUR-Btが60件、膀胱ランダム生検が4件であった。前立腺の手術では、前立腺全摘除術が49件、Brachytherapyが19件であった。精巣の手術では、RPLNDと除睾術が各1件であった。その他の手術では、前立腺Saturation biopsyが12件、腰麻下でのDJカテーテル交換が8件、尿道切開術が6件であった。

3. 三重県立総合医療センター泌尿器科 における手術統計（2010）

三重県立総合医療センター泌尿器科

栃木宏水, 金井優博, 松浦 浩

日下病院泌尿器科

亀田晃司

2010年の手術統計を行ない昨年までの統計と比較した。開院後16年3ヶ月の総計は2,629件であり、2010年は延べ124件で2009年に比し減少した。部位別には膀胱（39%）、前立腺（23%）、その他（15%）、腎（10%）、尿道（7%）、陰嚢内容（5%）の順であった。膀胱、腎、その他が減少した。主要手術別にはTUR-Bt（40）、TUR-P（17）、前立腺全摘術（12）、腎尿管全摘＋カフ（5）、PNS（3）、根治的腎摘出術（3）、高位精巣摘除術（2）、腎部分切除術（1）、膀胱全摘出術（1）の順であった。前立腺全摘術は増加したが、特にTUR-Btの減少が著明であった。

PNSの減少はDJステントの適応症例が多かったためと考えられた。

本年も内シャント関連手術は行われなかった。

4. 2010 年入院・手術・ESWL 統計

四日市社会保険病院

田丸裕巳，今村哲也，加藤貴裕

当院当科における 2010 年の入院患者数は 205 名（12～98 歳，平均 66.1 歳）であった。尿管結石での入院が最も多く 51 例，次いで前立腺生検目的が 28 例，腎結石が 20 例であった。手術は 157 例であった。Double J カテーテルが最も多く 97 例，内シャント造設術が 20 例（その内グラフト留置が 3 例），結石関係では経尿道的膀胱結石除去術が 15 例，TUL が 10 例，PNL が 1 例であった。ESWL は新患数 412 例（総破碎数 798 回）であった。9 月の新患数が最も多く 54 例であり，次いで 10 月の 51 例，8 月の 46 例であった。サイズ別では 5～10mm が最も多く 297 例，部位別では U1 が 166 例と最も多く，次いで U3 が 89 例であった。平均破碎回数は 1.94 回であった。

5. 2010 年三重中央医療センター手術統計

三重中央医療センター

芝原拓児，加藤雅史

三重中央医療センターにおける 2010 年の手術統計を報告する。総手術件数は 123 件であり最近の 3 年間で大きな変化はなかった。男性 105 例，女性 15 例であった。腎腫瘍に対する手術は 11 例で腹腔鏡下腎摘除術が 8 例であった。腎盂尿管腫瘍に対する手術は 2 例であり後腹膜鏡下腎尿管摘除術が 2 例であった。膀胱癌に対しては TUR-Bt が 41 例，膀胱全摘が 4 例（尿管皮膚瘻 2 例，回腸導管 2 例）であり TUR-P は 25 例であり前立腺全摘除術は 7 例であった。

体腔鏡下手術は 15 例施行し，導入から現在までに計 52 例となった。そのうち開腹移行が 3 例（5.7%）ありすべて右腎摘の症例であった。体腔鏡下手術における平均手術時間は腎摘除術 312 分

（204-450），腎尿管全摘術 417 分（285-670），副腎摘除術 208 分（131-325）であった。

6. 2010 年の手術統計

鈴鹿中央総合病院

荒木富雄，鈴木竜一，荒瀬栄樹

三重大学医学部附属病院腎泌尿器外科

加藤 学，岩本陽一，吉尾裕子，

西川晃平

鈴鹿中央総合病院における 2010 年の ESWL を除く総手術件数は 291 例で，昨年より 44 例減少した。全身麻酔，腰麻下の手術件数は 59 例，157 例とともに減少したが，腰椎麻酔の減少が多かった。一方，局所麻酔下の手術はブラッドアクセス依頼も多いままであるが，前年より 9 例少ない 66 例であった。悪性腫瘍手術は，前立腺全摘 21 例，根治的腎摘 10 例，腎部分切除術 1 例，膀胱全摘 8 例，腎尿管摘出術 6 例で大きな変化はなかった。TUR-Bt は second TUR も行っているが 82 例と減少した。精巣捻転は 4 例であった。ESWL 件数は 170 回と減少した。

7. 2010 年三重大学医学部附属病院手術統計

三重大学医学部附属病院腎泌尿器外科

山田泰司，三木 学，舩井 覚，

西川晃平，堀 靖英，吉尾裕子，

長谷川嘉弘，神田英輝，曾我倫久人，

有馬公伸，杉村芳樹

2010 年の手術件数は 338 例と昨年と同程度であった。主要手術別（例）には根治的腎摘術（26，そのうち開腹（10），Lapa（12），ミニマム（4）），生体腎移植術（6），腎尿管全摘術（6），副腎摘出術（11，そのうち Lapa（9），開腹（1），ミニマム（1）），TUR-Bt（66），膀胱全摘術（8），前立腺全摘術（18），Brachytherapy（6），TUR-P（14），Saturation Biopsy（19），精巣固定術（10），VUR 根治術（6），TESE（5），内シャント造設術

(34) であった。傾向としては、腹腔鏡下手術や生体腎移植術、Saturation biopsy が増加傾向であった。

8. 2010 年入院手術統計

武内病院

栗本勝弘，文野美希，木下修隆，
加藤廣海

2010 年入院手術患者の統計を報告した。総入院患者数 1,112 名，結石患者 545 名，結石以外 567 名であった。平均年齢 62.8 歳（13～97 歳），平均在院日数は 5.6 ± 10.7 日であった。結石以外の中では悪性腫瘍 29%，炎症性疾患 13%，良性腫瘍 5%，奇形 2%，その他 51% の順であった。手術統計では総数 943 件，うち ESWL が新規結石破碎症例数 361 例，総件数 578 件でほぼ横ばいである。うち PNL 4 件，TUL 11 件（f-TUL 1 件）を併用した。その他；腎・尿管：根治的腎摘除術 2 例，腎尿管全摘除術 1 例，TUR-Bt が 65 例（2nd TUR-Bt 1 例），膀胱全摘術 4 例（尿管皮膚瘻 2 例，新膀胱 2 例）。前立腺：RPRP 17 例，HIFU 5 例（4 例 TVP を併用）；TUR-P 23 例（TVP 16 例，TURis-VP 7 例），恥骨後式前立腺摘除術 3 例。Blood access 内シャント 56 例，グラフト造設 16 例。処置検査；経直腸的生検 257 件と増加傾向がみられた。

9. 済生会松阪総合病院の 2010 年入院・手術統計

済生会松阪総合病院

小川和彦，金原弘幸，柳川 眞

済生会明和病院

森 脩

2010 年の入院総患者数は 650 人（男性 516 人，女性 134 人）で前年とほぼ同数で，平均年齢 70.89 歳，平均在院日数 10.18 日で，疾患別では悪性疾患 291 人（44.8%），結石 195 人（30.0%），その他 65 人（10.0%）の順であった。同じく

2010 年の総手術件数は 341 件（ESWL 115 件，ESWL 以外 226 件）で，平均年齢 68.8 歳（5 歳～96 歳）であった。部位別に見ると膀胱 82 件（36.3%），前立腺 33 件（14.6%），腎尿管 22 件（9.7%）の順で多く，バスキュラーアクセス関連の手術が例年より減少していた。例年と比べ早期膀胱癌に対する TUR-Bt が増加したが，前立腺疾患に対する手術が減少しているのが特徴的であった。結石に対する ESWL は減少傾向にあった。発表ではこれらの内容を供覧する。

10. 山田赤十字病院における 2010 年の手術統計

山田赤十字病院泌尿器科

保科 彰，大西毅尚，佐々木豪，
加藤 学

男性 459 例，女性 91 例の計 550 例の入院患者に対して，延べ 344 件の手術を施行した。年齢は 1～101 才，平均 65.0 才，男女比は 4.7：1 であった。内訳は悪性腫瘍が最も多く 186 例，結石が 80 例，良性腫瘍が 39 例，奇形・その他の順であった。膀胱癌に対して膀胱全摘出術を 2 例に，TUR-Bt を 114 例に施行した。腎摘出術は 20 例で，うち 8 例で鏡視下手術を，また，腎尿管全摘出術は 8 例に施行し，うち 6 例で鏡視下手術を施行した。前立腺癌に対する前立腺全摘出術は 17 例，前立腺肥大症に対しては 33 例に TUR-P を施行して 6 例に偶発癌を認めた。ESWL は腎結石の 11 例，尿管結石の 48 例に，TUUL は 7 例，内視鏡的膀胱結石碎石術は 12 例に施行した。麻酔は全身麻酔が 60 例，腰椎・硬膜外麻酔が 195 例，局所麻酔が 24 例であった。ESWL は無麻酔で施行した。

11. 2010 年入院・手術統計

市立伊勢総合病院泌尿器科

今村哲也，堀内英輔，木瀬英明
うめだクリニック
梅田佳樹

①入院総数 273 名（男：女＝238 名：35 名）

入院の内訳は悪性腫瘍（腎癌 腎盂尿管癌 膀胱癌 前立腺癌）72 例，尿路結石 75 例，前立腺肥大症 14 例，尿路感染症 14 例が主な疾患であり，稀な疾患として PUJ 狭窄，膀胱腫瘍がそれぞれ 1 例であった。

②手術総数 166 例

TUR-Bt 21 例，TUR-P 13 例 前立腺全摘 9 例，ESWL 62 例が主であった。稀な手術としては腎盂形成 1 例，膀胱腫瘍閉鎖術 1 例であった。また IMRT 症例は 14 例であった。

12. 前立腺癌に対する金マーカー留置による強度変調放射線治療（IMRT）の初期経験

名古屋セントラル病院

平林 淳，古澤 淳，黒松 功

【対象と方法】対象は当院において，前立腺癌にて金マーカー留置による IMRT を施行した 46 例である。金マーカー留置及び，骨格とのズレ，また照射後の PSA 値の推移や有害事象につき検討した。平均観察期間は，14.9ヶ月であった。

【結果】全例，有害事象なく金マーカー留置が可能であった。IMRT 施行後の有害事象は Grade 2 の晩期直腸出血を認めたが，その他重篤な有害事象は認めなかった。現時点で，全例 PSA，再発なく経過している。

【考察】短期間での検討ではあるが，治療効果は良好で，従来の外照射に比べ安全な治療方法であると考えられた。

13. TVM 手術の経験

済生会松阪総合病院

金原弘幸，小川和彦，柳川 眞

済生会明和病院

森 脩

骨盤臓器脱に対する手術は従来婦人科で行われ

ていたが，2004 年にフランスの婦人科医のグループが tension-free vaginal mesh (TVM) 法を報告し日本でも 2005 年から行われるようになった。当院にて TVM 手術を 2 例施行したので報告する。患者は 2 例とも 70 歳代の女性，1 例は膀胱瘤，もう 1 例は子宮摘出後の陰断端脱であった。膀胱瘤の患者には TVM-anterior & posterior を施行，陰断端脱の患者には TVM-total を施行した。術後数か月しか経っていないが経過は良好である。TVM 手術を施行するまでに手術見学に行き，実際の手術には経験豊富な医師に指導に来ていただいた。TVM 手術にはブラインド操作があり Hand-on training が必要と考えられた。

14. 三重大学における LOH 症候群の治療成績

三重大学医学部附属病院腎泌尿器外科

堀 靖英，三木 学，舛井 寛，
西川晃平，吉尾裕子，長谷川嘉弘，
神田英輝，山田泰司，曾我倫久人，
有馬公伸，杉村芳樹

近年，本邦においても男性更年期障害の概念が，医療者に認識され，その診療の方向性が示され始めている。当科では，2010 年 10 月より LOH 症候群を担当する専門外来を設置し，現在までに男性更年期障害の疑いを主訴とした 24 例が当外来を受診した。このうち，遊離テストステロン FT <8.5 pg/ml で，ホルモン補充療法 ART 適応除外項目に該当せず，ART を開始した 21 例につき臨床的検討項目を解析した。

【結果】平均年齢 51.5 歳，平均 FT 6.7 pg/ml。AMS は，施行前→投与 3 回終了時→3 ヶ月目で，身体スコアが 24.3→13.4→15.0，心理スコアが 16.7→8.4→9.5，性機能スコアが 19.2→10.2→8.5 と減少した。PSA，血清ヘモグロビン値，総コレステロール値に有意な変化は認めなかった。頭痛で 1 例が ART を中止した。

【結論】LOH 症候群に対する ART の効果は，AMS の全項目で開始後早期から認められた。3 ヶ月間の投与では，特記すべき合併症は認めなかった。